

## 【第 131 回対策本部会議】 4 月 25 日

健康福祉部長／直近 1 週間の感染者数は 3,314 人、前週が 3,323 人とほぼ横ばい。年齢別でもこれまでと同じく、若い世代の感染者が多い。

入院者 167 人、病床使用率は 29.7%、うち中等症者用の病床使用率が 7.5%。ホテル使用率は 34.5%。病床使用率とホテル使用率は、先週より若干減少した。重症者はいない。自宅療養者は 3,663 人。

坂本副知事／20 代、30 代のワクチンの 3 回目接種率を教えて欲しい。

健康福祉部長／20 代以下は 20.4%、30 代は 32.5%。65 歳以上が 88.7%。若い世代の接種率は、高齢者に比べると少ない。

坂本副知事／高齢者の陽性者が抑えられている理由には、ワクチンの 3 回目接種の効果があると思う。

家庭を含めた感染のループが続いている。特に 20 代、30 代に 3 回目接種を検討してもらおう働きかけていく。関係部局も働きかけてほしい。

教育長／教育委員会は、児童生徒や保護者がワクチン接種について正しい知識を持ち、接種を検討してもらおう必要があると考えている。

県立学校と市町教育委員会に、厚生労働省が作成したワクチン接種に関するチラシの配布を依頼した。私学にも同様の情報を提供している。

知事／年代別のワクチン接種率を。

健康福祉部長／65 歳以上が 88.7%、60～64 歳が 72.8%、50 代が 60.1%、40 代が 43.2%、30 代が 32.5%で、12～29 歳が 20.4%。

県内で、約 2,000 人／日接種しているが、もう少し接種率を上げてほしい。

知事／佐賀県の直近 1 週間人口 10 万人当たりの感染者数は、沖縄に次いで 2 番目に多い。県民の皆様にも、改めてオミクロン株の説明とゴールデンウィークの対応についてお伝えする。

現在、感染者数は多いが、病床使用率は抑えられているため、緊急事態・非常事態にはなりにくい環境だと言える。

#### 入院者数と陽性者数の状況（4月15日～24日）

オミクロン株は、今年の1月から出てきたウイルスで、BA.2などの変異株に派生している。10日間の陽性者数4,600人、うち約5割の2,300人が20代以下。70代以上は376人で1割もない。

入院者2,394人のうち、20代以下は15人、70代以上は109人。感染者数に対し入院者が多いのが70代以上の特徴。また、50代以下では、亡くなった方も重症者も出ていない。

そこで重要なのが、70代以上の感染者を出さないこと。ワクチン接種は、感染予防に有効で、感染しても重症化しない。4回目も含め、ワクチン接種を推進する。

#### 佐賀県 病床使用率（21/4/1～22/4/25）

コロナ対策のポイントは、救急医療や通常診療を維持すること。そのため、病床使用率が重要になってくる。

アルファ株やデルタ株に比べ、オミクロン株の感染者数は多い。しかし、デルタ株の最高値65%に比べ、現在は30%弱。

先日、県内の専門家との意見交換で、「今はウイルスが人との共生を始めている段階だ」「当分の間は、感染者はなくなるだろう」との意見が示された。オミクロン株は、速いスピードで感染のループを作り出すため、これを断ち切るのは非常に困難。専門家の意見をふまえ、社会全体でオミクロン株との共生を考える時期ではないか。

今年のゴールデンウィークは、移動制限や行動自粛を求めない。それぞれが感染症対策を厳守することで、オミクロン株と折り合いをつけられるのではないか。

オミクロン株は感染しても症状が軽いため、すぐ症状が治まる。その場合、感染の可能性もあるため、ゴールデンウィーク中は、高熱や喉の痛みなど体調に異変があれば、数日外出を控え、感染拡大防止に努めてほしい。

感染者の全体数が増えると高齢者の感染者数も増え、病床使用率の増加が危惧される。オミクロン株といえども侮れない。

これ以上感染が広がると、救急医療や通常診療に影響が出てくる。高齢者の感染拡大防止のため、手指消毒、正しいマスクの着用、換気など基本的な感染予防対策の徹底をお願いする。

29歳以下の3回目ワクチン接種率が、非常に低い。全体の感染率を抑えるためにもワクチン接種の協力をお願いする。

自宅療養者数も多い中、医療現場をはじめ、介護、福祉、保育所、教育現場、保健所、ワクチン現場の皆さん、県民の皆様の取り組みに心から感謝申し上げます。

今後もエールを送り合い、引き続き誹謗中傷は行わないようにお願いします。感染症対策をして、よいゴールデンウィークをお過ごしください。